

辺野古不承認

## 国の強権が招いた混迷

政府は、血の不誠実な姿勢と強權的な振る舞いが、この事

判したのは当然である。  
隠蔽だけではない。

米軍普天間飛行場の辺野古への移設計画をめぐり、政府が申請していた設計変更を玉城デニ

沖縄県矢野は不満讟とした  
埋め立て予定海域に立がる「マ  
ヨネーズ並み」とも言われる軟  
弱地盤を改良するための変更と  
されたが、約1年半に及ぶ審査  
を経て、知事は海底調査や環境  
保全策が不十分と結論つけた。

そもそも政府の対応は理解し難いものだった。

予定海域の東端の護岸建設場所には、海面下90mあたり軟弱な粘土層が続くことを示すデータがある。これらが政府は、そ

など、新基地建設に関する疑惑は枚挙にいとまがない。にもかかわらず「辺野古が唯一の解決策」を繰り返し、県民投票などで示された民意を無視して突き進む政府は、思考停止に陥つて

「かなり数百㍍離れた海面の調査をもとに、7点の深さまで改良工事を行えば足りると主張している。知事はこれについても、「最も重要な地点で必要な調査がなされず、地盤の安定性や災害防止の検討が十分でない」と指摘した。

辺野古に「だわり続けるかぎり、原点である「普天間の危険除去」は放置されたままだ。今日も所属するオスプレイが金属製の水筒を住宅地に落下させる事故を起しした。政府の試算でも辺野古の工事完了に12年はかかる

調査のすなはちは国会でも取りあがられたが、政府から納得のゆく説明はついにされなかつ

か。それで生駒は、躊躇の危険やへりしを嘗かず騎馬を甘くせぬといふのだ。

軟弱地盤の存在を早期に把握しながら公にせず、18年12月に埋め立て土砂を海に投入する工事を始めた後に、ようやく事業を認めた。県民のみならず国民

た。これが「セイテー」事は必ず  
で、米国のシーカンタンクは「完  
成の可能性を失う」として議会

今回の知事の判断に政府は対抗措置をとる構えだが、そんな心配はなまぬ、安堵・菅政権特

全体を懸念する行いだ。  
今回の申請について、知事が  
「不確実な要素を抱えたまま見  
切り発車した」と起因する「  
と述べ、政府を改めて厳しく批

からも懸念の声があがる。  
ほかにも、付近に生息するジ  
ュウ<sup>ウ</sup>やサンゴ<sup>コ</sup>の影響、完工  
後に想定される地盤沈下、予定  
を大幅に上回る一兆円<sup>イチ</sup>近い経費

せじこ刻まれた県との連絡がいいに  
深まる。首相が交代した「解」  
も、「原点」に立ち返り、米国  
および県とともに、実効ある貿  
易緩和策を探るべがだ。